

名称:

木構造(F) m² ・在来軸組み工法 ・伝統的工法 ・2X4工法

耐震診断評点	<耐震診断時> (・一般診断) (・精密診断)	1FX方向	1FY方向	2FX方向	2FY方向	3FX方向	3FY方向		
	<改修計画後> (・一般診断) (・精密診断)	1FX方向	1FY方向	2FX方向	2FY方向	3FX方向	3FY方向		
	部位	診断時:種類						改修後:種類	
	屋根								
主な耐震改修内容	耐力壁①								
	耐力壁②								
	耐力壁③								
	基礎								
	その他								

地盤の確認方法 方法 ・オーガーホーリング ・試験掘りによる地層の簡易判別法 ・その他
(小規模建築物基礎設計の手引きより)

壁が一体となって地震に抵抗する立証方法

- ・床倍率(品確法による)
- ・分割した全ての部分で1以上を確保

<別紙 2>

要綱に定める地盤の確認方法について

試験掘りによる地層の簡易判別法

小規模建築物基礎設計の手引きより

地層の硬さ		素掘り	オーガーボーリング	推定N値	推定許容地耐力(長期t/m ²)
粘性土	極軟	鉄筋を容易に押し込むことができる	孔壁が土圧でつぶれて掘りにくい	2以下	2以下 *1
	軟	シャベルで容易に掘れる	容易に掘れる	2~4	3 *1
	中位	シャベルに力を入れて掘る	力を入れて掘る	4~8	5
	硬	シャベルを強く踏んでようやく掘れる	力いっぱい回すとようやく掘れる	8~15	10
	極硬	つるはしが必要	掘進不能	15以上	20
地下水面上の砂質土	非常にゆるい	孔壁が崩れやすく、深い足跡ができる	孔壁が崩れやすく、試料が落ちる	5以下	3以下 *2
	ゆるい	シャベルで容易に掘れる	容易に掘れる	5~10	5 *2
	中位	シャベルに力を入れて掘る	力を入れて掘る	10~20	10
		シャベルを強く踏んでようやく掘れる	力いっぱい回してようやく掘れる	20~30	20
密	つるはしが必要	掘進不能	30以上	30	

注) *1 過大な沈下に注意を要す
*2 地震時の液状化に注意を要す

土の分類 日本建築学会「建築基礎設計のための地質調査計画指針(1985)による

0.074以下の細粒土	分類
20%以下	砂質土
20%を超え50%未満	中間土
50%以上	粘性土

建築物の基礎の場合は砂質土か粘性土(中間土は粘性土に含める)の区別で十分な場合が多い